



Q₀ 岡義博法律事務所報 第49号

高松市丸の内7番20号 丸の内ファイブビル5階

T E L (087) 821-1300

F A X (087) 821-1833

MAIL oka-law@kln.ne.jp

H P http://www.kln.ne.jp/oka-law/

無責任体制

東京オリンピックに暗雲が漂っている。新国立競技場の建設問題に続き、公式エンブレムも白紙撤回された。

新国立競技場は総工費が当初予想の倍にふくらみ2650億円となり、世論の猛反発を受け白紙撤回となった。しかし、既に60億円以上の出費がなされているという。どうしてデザインが決まった段階で60億円もの出費がなされているのか理解できない。

総工費が予想の倍になったというのもどうしてそうなるのか理解できない。デザインを決める段階で工事費なども考慮して選定をしないのだろうか。建築物を建てるわけだから普通ならデザインと合わせて工事費も検討するでしょう。今後は総工費は1550億円と決め、新たにデザインを公募し、業者の選定をするという。完成は2020年にずれ込むことになりそうである。

このような事態になった責任者は誰かという点もはっきりしない。文科省と文科省傘下の日本スポーツ振興センター(JSC)が責任の押し付け合いをしている。最終の決定権がどちらにあるか明確にしていなかった為このような事態となったのである。今後は遠藤五輪担当大臣を責任者にすると決めたようであ

所 長 弁護士 岡 義 博

るが、最初からそうすれば良かったのである。

エンブレム問題も責任の所在がはっきりしない。大会組織委員会の事務局長は、組織委員会、審査委員、デザイナー(佐野氏)の三者三様の責任があると発言している。確かに、それぞれに責任はあるのだろうが、最終の責任はどこにあるかが、ここでもはっきりしていない。大会エンブレムは本来IOCの所有物であり、日本国内では大会組織委員会が管理するものとされているようである。そうすると最終責任者は組織委員会ということになる。組織委員会の会長である森元首相はエンブレム問題につき、えらい目に遭ったと発言しているが、えらい目に遭ったのは日本国でしよう。東京でオリンピックが開かれるなら、安心であり確実であるという世界の信頼があったはずである。それが、今回の国立競技場とエンブレムの件で、日本は世界の信頼を失ったと言ってもいい状況である。

今回の件で、集团的無責任体制という新語まで生まれそうである。今後は責任者を明確にして、エンブレムと国立競技場問題に早急に対処し、世界の信頼を取り戻して欲しいものです。



法の女神・テミス

この像は、ギリシャ神話の「法の女神」テミス(Themis …ギリシャ語で、「掟」「習慣」「法」「正義」を意味します)を形どったものです。

右手に掲げるはかりは、公平を象徴するとともに、悪の重さをはかり、左手の剣は力による貫徹を象徴し、目隠しは無私をあらわすものといわれています。

前回に引き続き、自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律について、各罪と罰則を説明します。

第2条(危険運転致死傷罪) 6 類型あります。①アルコール・薬物の影響で正常な運転が困難な場合②制御困難な高速度運転の場合③制御技能を有しない場合④通行妨害目的の直前進入や著しい接近で重大な危険を生じさせた場合⑤赤信号無視で同じく重大な危険発生の場合⑥通行禁止道路通行で同じく重大な危険発生の場合。これらの場合で傷害を負わせると懲役15年以下(下限は1ヶ月。以下同じ)、死亡させると懲役1年以上(上限は20年。以下同じ)となっています。

第3条 前条①のアルコール・薬物事犯で、正常な運転に支障が生じるおそれがある場合(前条より程度が軽い場合)は、傷害は懲役12年以下、死亡は懲役15年以下とされています(1項。少し罰則が軽い)。また、特定の病気で正常な運転に支障が生じるおそれが

ある場合も同様に処罰されます(2項)。

第4条(発覚を免れる罪) アルコール・薬物事犯で、アルコール・薬物の発覚を免れる行為をした場合には12年以下の懲役とされています。発覚を免れる行為の例示として、更にアルコール・薬物を摂取することや、その場を離れて保有するアルコール・薬物の濃度を減少させることが示されています。

第5条(過失運転致死傷罪) 自動車で人を死傷させる罪の基本型です。死傷いずれも懲役又は禁固7年以下あるいは罰金100万円以下(下限は1万円)です。但し、傷害が軽い場合には、刑が免除される場合があります。

第6条(無免許の加重) 以上の罪について、無免許で犯した場合は罪が加重されます。2条の罪は6月以上の懲役。3条の罪は傷害の場合15年以下の懲役、死亡の場合6月以上の懲役。4条の罪は、15年以下の懲役。5条の罪は10年以下の懲役です。

高松 ウォッチング

事務局 E・O

毎年受ける人間ドック。結果はフツウ。

その時の事。私は胃のレントゲンが大の苦手。あのバリウムが原因の一つ。

まず台の上でうつぶせ状態。驚いたー。突然、技士さんが両腰を持ってすごい勢いで揺すりだした(これは初めての経験)。

胃の中のバリウムをシェイク??もう超気分がわるくなり、出すなと言われたゲップが…気がついたら「やめて下さい」と大声を出していた。この騒ぎでゲップが出てしまっていたらしい。技士さん「炭酸も一度飲みますか?」「いやです」

台上の戦いは続いた。右に、斜めに、左に、はい回って、との指示。「違いますよ。右回りです」。もう右も左もわからん！

「もうすぐ終わりますから、頑張ってくださいー」しかし、ちっとも終わらんー。

機械が動いて私は立ち位置へ。「次は機械がお腹を押さえます。痛かったら、言って下さいー」左から「ギー」っとげんこつみたいな機械が出てきた「グーッ」とお腹を圧迫。「痛たーそこは骨、骨、骨〜」と思ったが、口には出さず、じっと我慢。(そのときこそ言うのだろうが。と後で主人)

「だってー、お腹の脂肪で骨の位置がー」。

その後技士さんから声がかかる。

「目を開けておいて下さい〜」

「え?目を開ける?」私は今までバリウム検査では必死で目をつぶっていた。

目を開けた。なるほど〜

楽になった。

その時には検査は終わり！



八十八ヶ所巡り

その13

今回は高野山の話。今年(平成27年)は高野山開創1200年。開創1200年を記念して様々な行事が行われました。四国霊場会による慶讃法会は4月23日に行われました。全国から公認先達が高野山に集まったが、私達夫婦も香川県からの参加者と共に参拝しました。



高野山では、1200年を記念して中門が172年ぶりに再建されました。霊場会では「お大師様と歩む四国遍路・高野山への道」を企画し、平成25年から大師像を背負って四国八十八カ所霊場を巡っていました(これには私は残念ながら参加していませんが)。

大師像は四国八十八カ所を巡った後、善通寺を出発して淡路島を経由して京都の東寺に入っていました。東寺も弘法大師ゆかりの寺です。

東寺を出発した大師像は4月に入り高野山に到着していました。

23日当日、お練り行道の一行は大師像と共に大門を出発し再建された中門をくぐって、法会の会場である金堂へ。



春光の 高野の山に 経流る

大師像が納められた後、法会が営まれました。霊場会会長の表白文に始まり、厳かに読経が行われました。たいへん厳粛で感動的でした。

この後、大師像を先頭に、一行は金剛峯寺を経て奥の院へ。奥の院の燈籠堂において法要が営まれ「お大師様と歩む四国遍路・高野山への道」は結願しました。貴重な体験をさせて頂きました。次回は100年後でしょうか。(Y・O)



ちょっとひといき

8月、娘と三代目J Soul Brothersのライブに出かけた。

ライブ2ヶ月前、娘から「しっかり予習しておいた方が楽しいよ。」と、ライブの曲を編集したUSBを渡された。今回のライブは全てEXILEファンである娘任せ。しかしチケットを手に入れるのは大変な事らしい。当選確率を上げる為、友達と何件も応募して手配するようだ。

なんと、その難関ライブチケットが幸運なことになりアリーナ席中央ステージの直ぐ側が当たった。これは絶対行かねば、とテンションが上がる。

ところが、娘と二人で泊まりで出かけるとなると、主人と息子から、「何で母さんが行かんといかんの? 母さんはおったら。」と間際になって反対が出る始末。そこは強行突破で、夕方の犬

事務局 K・K

の散歩も無理矢理息子に押しつけ出かけた。

当日、大阪京セラドームには、4万5千人が集合した。会場チケットに外れた人は、各地の会場で2万5千人が同時にライブを見とのこと。改めてすごいラッキー!

開演2時間前に席に着くと、直ぐ横に中央ステージがあり、娘が「やっぱり近いなあ。その通路をトロッコに乗って通るんで。」と教えてくれた。「じゃあ、トロッコのレールは、もうそろそろ引くんかなあ。」と言うと「トロッコって車でっ。」何や、恥ずかしい。でも、私達親子の前席も同じような親子が居る。ライブ中、前席のお母さんが娘さんよりノリノリに飛び跳ねた。私も負けじとフラグを振りながら飛ぶ。3時間半、あっという間の楽しい時間だった。娘に感謝。

外部の方からの投稿です

Oquesera, sería, sería ♪なるようになる♪

事務局 M・O

突然ですが、皆さんは「スピーチ」をしたことがありますか？私は、最近生まれて初めてのスピーチに挑戦しました。前職場の友人の結婚式のスピーチです。大切な友達なので喜んで引き受けたのは良いものの、その日から式までの間、毎日その事で頭がいっぱいになる位にプレッシャーを感じていました。実は、私は大のあがり症&泣き上戸なのです。

花嫁との思い出を振り返りながら内容を考え、スピーチ中に泣き過ぎないように何度も自主練習して、いざ本番に臨みました。

結果的には、花嫁も私も号泣(笑)してしまいましたが、ご家族や参列された方にもすごく良いスピーチだったと喜んで頂けました。とても感動的な結婚式で、そんな場でお話させてもらえるなんて素晴らしい経験だったなと感じています。

ただ一つ残念だったのは、自分の出番までは緊張で食べ物が喉を通らず、逆に終わった後は、それまでの緊張が一気に解けたせいか胃に激痛が襲ってきてやっぱり何も食べられませんでした。あーあ、せっかくのご馳走が…(涙)